

令和5年度・令和6年度の主な取組(島田市)

令和5年度実施

○ハード対策の主な取組

- ・緊急浚渫推進事業債を活用し、河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採を実施



○地域住民の防災意識向上のための取組

- ・学校水防災教育の実施
市内小・中学生を対象とした水防災教室を実施し、児童・生徒の知識を深め防災意識の向上を図った。

○迅速かつ的確な避難行動のための取組

- ・河川の氾濫等による浸水が頻発する地域において住民自らが河川の状態を把握し、避難の判断ができるよう、新たに市管理河川に危機管理型水位計を設置した。

○迅速な水防活動の取組

- ・水防訓練の継続実施
各種土のう工法の訓練を実施し、消防団等の技術と意識の向上を図った。
自主防災組織の参加により、地域住民の防災に関する技術と意識の向上を図った。



- ・土のうステーションの継続運用
大雨や台風等による浸水被害に対する住民の自衛活動への支援を目的として設置した土のうステーション(市内5箇所)を運用している。

令和6年度予定

○ハード対策の主な取組

- ・緊急浚渫推進事業債を活用し、河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採を実施

○地域住民の防災意識向上のための取組

- ・学校水防災教育の継続実施
市内小・中学生を対象とした水防災教室を実施し、児童・生徒の知識を深め防災意識の向上を図る。
- ・島田市防災ガイドブックの改定
島田市防災ガイドブックを改定し、防災に関する知識や心構えを習得し、住民の避難行動や防災活動に一層活用できるものとする。



○迅速かつ的確な避難行動のための取組

- ・災害情報共有システムの導入
災害情報共有システムを導入し、全庁で被害や対応状況等の情報の共有を図る。
- ・わたしの避難計画の作成
「島田市洪水・土砂災害ハザードマップ」を活用した「わたしの避難計画」を令和5年度から令和7年度の三か年で各家庭で作成していく。

○迅速な水防活動の取組

- ・水防訓練の継続実施
- ・土のうステーションの継続運用

令和5年度・令和6年度の主な取組(焼津市)

令和5年度実施

○地域住民の防災意識向上のための取組

●出前講座の開催

小・中学校、地域団体等を対象とした、水災害に関する防災教育と、ハザードマップの周知



○迅速かつ的確な避難行動のための取組

●必要な情報を視覚的にわかりやすく提供する、災害情報共有システム(防災ポータル)の運用開始

●焼津市水防監視システムの拡張(水位計の設置)

●冠水センサーの設置



○迅速な水防活動・排水活動の取組

●総合水防訓練の実施



●水災害対応訓練の実施



●排水ポンプ車の運用、操作訓練の実施



令和6年度予定

○ハード対策の主な取組

●雨水貯留浸透施設設置補助事業の運用開始



●(準)小石川遊水地の整備

●流域貯留施設測量設計業務委託

○地域住民の防災意識向上のための取組

●小・中学校、高校、地域団体等を対象とした、水災害に関する防災教育と、ハザードマップの周知



○迅速かつ的確な避難行動のための取組

●焼津市水防監視システムの拡張(水位計の設置)

○迅速な水防活動・排水活動の取組

●総合水防訓練の実施

●水災害対応訓練の実施

●排水ポンプ車の操作訓練の実施

令和5年度・令和6年度の主な取組(藤枝市)

令和5年度実施

○ハード対策の主な取組

●藤枝市水位・雨量観測システムのさらなる拡充

・市内中小河川に水位計、雨量計、河川監視用ライブカメラを新たに3か所設置し、24時間いつでもリアルタイムに河川の状況が確認できる体制を整備し、水防配備体制の移行の判断や住民の避難行動啓発に活用した。



河川監視用カメラ

○地域住民の防災意識向上のための取組

●洪水災害版マイ・タイムラインの普及

・令和4年の台風15号では、市内各所で浸水被害が発生。このような洪水災害から、市民が「逃げ遅れない」ための対策として、「洪水災害版マイ・タイムライン」を全戸配布し普及に取り組んだ。

「手順書・リスクシート・学習資料」



「マイ・タイムラインシート」



令和6年度予定

○ハード対策の主な取組

●被害軽減のための基盤等の整備
・河川の水位情報を見ることができる、河川監視用ライブカメラのさらなる拡充を図る。

河川監視用カメラ



○地域住民の防災意識向上のための取組

●デジタル版マイ・タイムラインの推進

・避難の実効性をさらに高めるため、デジタル版マイ・タイムラインの推進を図る。

●出前講座の開催

・出前講座により、子供や高齢者に対する避難意識の向上を図る。



出前講座



デジタル版マイ・タイムラインイメージ

○迅速な水防活動・排水活動の取組

●水防配備体制の強化

・危機管理センターと連携し、より迅速で適切な情報共有が可能な体制を構築する。

令和5年度・令和6年度の主な取組(牧之原市)

令和5年度実施

○ハード対策の主な取組

- ・緊急浚渫事業により、河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採を実施。
- ・準用河川沢垂川の河川改修を実施。

○地域住民の防災意識向上のための取組

- ・地域団体や市内小中学校へ風水害対策の講座を実施。

○迅速かつ的確な避難行動のための取組

- ・「わたしの避難計画」の全戸配布(山間部)
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成及び訓練実施の促進(関係各課との連携強化)

○迅速な水防活動・排水活動の取組

- ・排水ポンプ車の運用。平常時から点検及び訓練を実施。

風水害について



令和6年度予定

○ハード対策の主な取組

- ・緊急浚渫事業により、河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採を実施。
- ・準用河川沢垂川の河川改修を実施。
- ・緊急排水対策事業として、浸水被害の多発箇所へ排水ポンプを2箇所設置する。

○地域住民の防災意識向上のための取組

- ・地域団体や市内小中学校へ風水害対策の講座を実施。

○迅速かつ的確な避難行動のための取組

- ・「わたしの避難計画」の普及・啓発
- ・実効性のある個別避難計画の作成
- ・個別避難計画検証のための避難訓練の実施

○迅速な水防活動・排水活動の取組

- ・排水ポンプ車の運用。平常時から点検及び訓練を実施。

風水害について



令和5年度・令和6年度の主な取組(吉田町)

令和5年度実施

○ハード対策の主な取組

- ・大窪川の護岸改修を実施
- ・第3号ポンプ場整備事業の実施
- ・二級河川湯日川流域治水対策計画の策定
- ・河川浚渫工事の実施



○地域住民の防災意識向上のための取組

- ・防災講座を複数回行い、町民及び地域の防災力の向上を行った



- ・津波避難訓練では能登半島地震を教訓に作成した安否確認表を使用し訓練を行った

○迅速かつ的確な避難行動のための取組

- ・静岡県と共同で作成した「わたしの避難計画」を出前講座等で活用することにより減災に繋がった



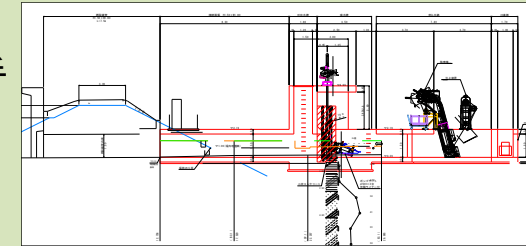
○迅速な水防活動・排水活動の取組

- ・大井川河口の右岸に国が整備した大井川川尻地区河川防災ステーション及び水防活動の拠点となる水防センターを活用した水防活動の実施

令和6年度予定

○ハード対策の主な取組

- ・大窪川の護岸改修を実施
- ・第3号ポンプ場整備事業の工事着手
- ・二級河川湯日川流域治水対策計画に基づき個別の整備検討に着手
- ・河川浚渫工事の実施



○地域住民の防災意識向上のための取組

- ・防災講座を複数回行うことで、町民及び地域の防災力の向上
- ・要配慮者利用施設避難確保計画に基づく支援等
未策定施設に対し、計画作成支援
関係各課との連携強化

○迅速かつ的確な避難行動のための取組

- ・静岡県と共同で作成した「わたしの避難計画」を防災訓練や出前講座等で活用することにより減災に繋げる



○迅速な水防活動・排水活動の取組

- ・大井川河口の右岸に国が整備した大井川川尻地区河川防災ステーション及び水防活動の拠点となる水防センターを活用した水防活動の実施

令和5年度・令和6年度の主な取組(川根本町)

令和5年度実施

○ハード対策の主な取組

河川に堆積した土砂を撤去するための費用を計上し、重機借上による河床の掘削を実施した。



○地域住民の防災意識向上のための取組

・地域版タイムライン作成研修の開催



○迅速かつ的確な避難行動のための取組

令和4年度に改定したマニュアルを確認しながら、総合防災訓練を実施した。



○迅速な水防活動・排水活動の取組(継続)

大雨時の河川巡視やの水防活動は消防団が担っている。ポンプ点検を行う際に資機材や操作の確認を行い、機材を扱う職員の育成を行なった。

令和6年度予定

○ハード対策の主な取組(継続)

河川に堆積した土砂を撤去するための予算を計上し、予防的な水害対策を実施します。



○地域住民の防災意識の向上のための取組

- ・町広報誌に防災コラムを毎月掲載。(継続)
- ・わたしの避難計画(北部地域)の作成、告知。

○迅速かつ的確な避難行動のための取組(継続)

災害対策本部・支部運営訓練を行い、指示系統や連絡体制の確認を行なう。



○迅速な水防活動・排水活動の取組

- ・大雨時の河川巡視やの水防活動は消防団が担っている。ポンプ点検を行う際に資機材や操作の確認を行い、機材を扱う職員の育成を行なっている。(継続)
- ・水防演習(土のう作り)(5月)



令和5年度・令和6年度の主な取組(静岡県危機対策課)

令和5年度実施

○「わたしの避難計画」の普及

- ・「わたしの避難計画」の普及を図るため、動画の公開やポスターの掲示、啓発活動等を実施。
- ・「わたしの避難計画」を自力で作成できない方をサポートする「わたひな普及員」を養成する講座を実施し、更なる普及を促進。

わたしの避難計画(静岡市)

わたしの避難計画(焼津市)

○防災アプリ「静岡県防災」による自主防災体制の強化

- ・自主防災組織の点検及び現状把握を目的とした防災カルテや、災害の情報や避難所の情報を自主防災組織からいち早く得ることを目的とした災害状況投稿機能を有する「見える化機能」の自主防災組織への周知・説明を積極的に行った。



防災アプリ「静岡県防災」

令和6年度予定

○「わたしの避難計画」の普及

- ・市町と連携し引き続き普及を図っていく。また、普及が円滑に進むよう地域での普及人材の育成を図るとともに、周知啓発を実施していく。

○防災アプリ「静岡県防災」による自主防災体制の強化

- ・避難所支援機能等の普及やシステム改良により利便性の向上を図っていく。

○風水害対処訓練の実施

- ・中部地域局や市町等と連携した風水害対処訓練を実施し、関係機関との連絡調整、迅速かつ的確な情報伝達等について確認を実施していく。



令和5年度の訓練の様子

令和5年度・令和6年度の主な取組(静岡県中部地域局)

令和5年度実施

○逃げ遅れゼロのための取組

・市町風水害版図上訓練(演習)の実施

市町の防災担当職員等を対象とし、風水害に対応した気象庁が作成した「市町防災担当者向け気象防災ワークショップ」を実施。



R5 気象防災ワークショップ

○住民の防災意識向上のための取組

・企業等への出前講座の実施

管内の企業や自主防災会に対し、近年における風水害の現状と課題や平時から備えるべき事項に関する出前講座を実施。



防災指導員能力向上研修

・水防災に関する防災教育の推進

地震・津波を中心に進めている「防災出前講座」において、近年全国で多発している風水害に関する防災講話を実施。

・メールマガジンによる情報提供

管内の企業等に防災情報のメールマガジンを発信。

令和6年度予定

○逃げ遅れゼロのための取組

・市町風水害版図上訓練(演習)の実施

昨年度に引き続き、「住民の避難行動」の改善及び市町の防災担当職員のスキルアップを目的に、気象庁が作成した「市町防災担当者向け気象防災ワークショップ」を実施する。

【参加予定機関】

管内7市町 防災担当職員
静岡地方気象台
静岡河川事務所
県関係各課及び出先機関

○住民の防災意識向上のための取組

・企業等への出前講座の実施

昨年に引き続き、管内の企業や自主防災会に対し、近年における風水害の現状と課題や平時から備えるべき事項に関する出前講座を実施する。

・水防災に関する防災教育の推進

昨年に引き続き、風水害に関する防災講話を実施する。

・メールマガジンによる情報提供

昨年に引き続き、管内の企業等に気象関係や水防災情報を記載したメールマガジンを発信する。



防災講話の様子(小学校)

令和5年度・令和6年度の主な取組(静岡県河川砂防局)

令和5年度実施

〇ソフト対策の主な取組②

(1)情報伝達の強化、避難計画等の策定

①**想定最大規模降雨を対象とした洪水浸水想定区域図の作成・公表**
洪水予報河川、水位周知河川以外の河川(対象外河川除く)の洪水浸水想定区域図を作成・公表により、水害リスク情報の空白域を解消するとともに、市町が作成するハザードマップへの反映を支援していく。

・令和5年度

静岡土木事務所管内:安倍中河内川など62河川

島田土木事務所管内:童子沢川など46河川

* 上記管内における対象河川の洪水浸水想定区域図は、すべて公表済みとなった。

〇ソフト対策の主な取組①

(1)平時から住民等への周知・教訓・訓練

⑥地域住民等への水防災教育の実施

- ・県庁見学会を活用し、水害リスクや情報の入手方法等を説明した。
- ・市町防災職員向けの研修会・意見交換会を開催した。
- ・市町が開催する研修会・説明会において、水害リスク情報等について説明する講師として職員を派遣し支援した。

(令和5年5月21日の静岡市水防団説明会に参加し、サイポスレーダーの見方、使い方を説明等を説明。)

・『流域治水』の取組を地域の皆様に御理解いただくとともにさらに強力に推進するため、「筆文字ロゴ」を使用し、流域治水の普及・啓発に努めた。



(令和5年度県庁見学会の様子)

令和6年度予定

〇ソフト対策の主な取組②

(1)情報伝達の強化、避難計画等の策定

①洪水予報河川及び水位周知河川以外の

その他河川(対象外河川除く)における洪水浸水想定区域の指定

静岡・島田土木事務所管内における対象河川すべての洪水浸水想定区域図の作成・公表が令和5年度末に完了したため、水防法に基づく区域の指定を実施していく。また、区域指定により義務化される市町のハザードマップ作成を支援していく。

〇ソフト対策の主な取組①

(1)平時から住民等への周知・教訓・訓練

⑥地域住民等への水防災教育の実施

- ・激甚化・頻発化する豪雨に対し、市町と共に、的確な水防業務を目指して水防法等の勉強会を継続実施する。(令和5年12月22日実施)
- ・流域治水の取組の一つとして、防災教育の教材『しぞ〜か 防災かるた(水編)』を作成する。住民に水災害を自分事として捉えてもらうため、学生と行政等が協働するワークショップを開催し、住民目線のかかるたの句を題材に盛り込み作成する。



(令和5年度勉強会の様子)



(ワークショップの様子とかるた完成イメージ)

- ・令和6年(2024年)は、昭和49年(1974年)7月の七夕豪雨災害から50年の節目となる。水災害を自分事として捉えてもらうことを目的に流域治水シンポジウムやパネル展を県内で実施。(シンポジウムは令和6年7月6日開催)

令和5年度・令和6年度の主な取組(島田土木)

令和5年度実施

○ハード対策の主な取組

河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採による流下能力の保全

国土強靱化総合流域防災事業、県土強靱化対策事業等により、管内24河川における河道掘削や樹木伐採などの工事を実施。

大代川(実施前)



大代川(実施後)

○地域住民の防災意識向上のための取組

水害の出前講座の実施

水害リスクを防ぐ施設の建設現場を体感してもらうため坂口谷川水門にて親子見学会を実施



○迅速かつ的確な避難行動のための取組

想定最大規模の洪水浸水想定区域図の作成

伊久美川ほか42河川において、洪水時に堤防が破堤または溢水したという仮定の下「洪水浸水想定区域図」を作成。

監視カメラの設置

過去に浸水のあった地域において、河川水位上昇を把握し、住民の的確な避難行動に役立てるため監視カメラ(5箇所)を設置。



○迅速な水防活動・排水活動の取組

ホットライン訓練の実施

島田土木事務所長と管内各市町長とのホットライン体制を構築し、相互確認のため焼津市と訓練を実施。

洪水予報演習の実施

雨期前に洪水予報演習を3回実施。

令和6年度予定

○ハード対策の主な取組

河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採による流下能力の保全

国土強靱化総合流域防災事業や緊急河川浚渫対策事業などにより、管内の河川における河道掘削や樹木伐採などの工事を実施。

○地域住民の防災意識向上のための取組

水害・土砂災害の出前講座の実施

地域の危険箇所や避難経路を確認するため、手作りハザードマップの作成など、適切に避難するための出前講座を実施。

○迅速かつ的確な避難行動のための取組

監視カメラの活用

令和5年度に設置した監視カメラを住民の的確な避難行動に役立てるため活用を図る。

○迅速な水防活動・排水活動の取組

ホットライン訓練の実施

雨期前に島田土木事務所長と管内各市町長とのホットライン体制を構築し、相互確認のため訓練を実施。

洪水予報演習の実施

雨期前に洪水予報演習を3回実施。

令和5年度・令和6年度の主な取組(静岡地方気象台)

令和5年度実施

○地域住民の防災意識向上のための取組

→静岡県の自治体等にワークショップや出前講座等の講演を通して、防災意識向上のための普及・啓発を行った。

下の写真は今年度に行ったもので、左が中学校との気象庁ワークショップの様子で、右が自治体との気象防災ワークショップの様子である。

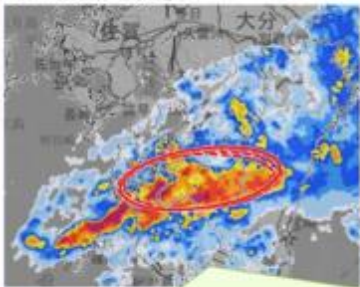


○迅速かつ的確な避難行動のための取組

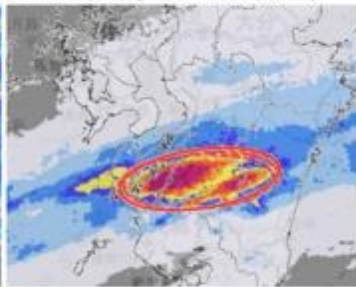
→顕著な大雨に関する気象情報の新運用とその情報を補足する図情報の更新が行われたので、静岡県の自治体等に、キキクルに加えて、その使い方を周知した。

【気象庁ホームページにおける表示例】

◆「雨雲の動き」



◆「今後の雨」(3時間降水量)



- 大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域(現在時刻の解析)
- 大雨災害発生危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域(10～30分先の解析)

ある時刻(現在時刻)に解析された線状降水帯の雨域を実線の楕円で、現在時刻から10～30分先に解析された線状降水帯の雨域を破線の楕円で表示。

令和6年度予定

○地域住民の防災意識向上のための取組

→引き続き、静岡県の自治体等にワークショップや出前講座等の講演を通して、防災意識向上のための普及・啓発を行う。

○迅速かつ的確な避難行動のための取組



→2024年3月5日の「第11世代数値解析予報システム」の導入により、2023年3月に導入された「線状降水帯予測スーパーコンピュータ」と合わせて更新前のスーパーコンピュータの約4倍の計算能力になった。これにより予報の精度が向上し、気象情報の改善が行われた。

→令和6年度は線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの情報が、これまでは地方単位で呼びかけていたものを、令和6年5月27日からは府県単位で呼びかけることになった。また、引き続き、静岡県の自治体等に、キキクルに加えて、その使い方を周知したい。



東海地方



静岡県

対象地域を
絞り込んで発表

大雨に関する静岡県気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇時〇〇分 静岡地方気象台発表
<見出し>
東海地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生危険度が急激に高まる可能性があります。
<本文>
…(中略) …

大雨に関する静岡県気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇時〇〇分 静岡地方気象台発表
<見出し>
静岡県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生危険度が急激に高まる可能性があります。
<本文>
…(中略) …

令和5年度・令和6年度の主な取組(長島ダム)

令和5年度実施

○ダムの機能を最大限活用する運用方法の取り組み
洪水時に下流の被害を軽減するため、ダムの機能を最大限活用する洪水調節方法の導入に向けた検討を引き続き実施する。

○地域住民の防災意識向上のための取組

ダム見学に訪れた小中学生に向けて、ダム役割と限界、早めの避難の重要性について説明を実施。



長島ダムでの説明状況



ダム堤体内での説明状況

○避難勧告等の発令判断を支援するための トップセミナーの定例化

川根本町と定例会を実施し、避難勧告等の発令判断を支援するためのトップセミナーを継続実施していく。

令和6年度予定

○堆積土砂対策の加速

洪水調節容量内の堆砂問題について、新規予算を確保し堆積土砂掘削を加速させる。

○ダムの機能を最大限活用する運用方法の取り組み

洪水時に下流の被害を軽減するため、ダムの機能を最大限活用する洪水調節方法の導入に向けた検討を引き続き実施する。

○地域住民の防災意識向上のための取組

ダム見学に訪れた小中学生に向けて、ダム役割と限界、早めの避難の重要性について説明を実施。



長島ダムでの説明状況



ダム堤体内での説明状況

○避難勧告等の発令判断を支援するための

トップセミナーの定例化

川根本町と定例会を実施し、避難勧告等の発令判断を支援するためのトップセミナーを継続実施していく。

令和5年度の主な取組(静岡河川事務所)

令和5年度実施

■安倍川:洪水を河川内で安全に流す対策

○侵食対策

・福田ヶ谷地区において、侵食による堤防の決壊を防ぐために低水護岸の整備を実施。

○護岸修繕

・飯間地区において、護岸の修繕を実施。

○水位低下対策

・洪水を安全に流下させるために、下川原地区、手越地区で河道掘削を実施。

○災害復旧

・大原地区において、令和4年台風第15号で被災した護岸を復旧。

表 堤防の整備状況(令和5年度末時点)

	堤防必要区間 延長(km)	計画断面堤防区間		暫定断面堤防区間	
		延長(km)	率(%)	延長(km)	率(%)
整備計画策定時	52.1	32.3	60.0	14.1	26.0
現況		41.0	78.7	11.1	21.3

大原地区 低水護岸L=160m



福田ヶ谷地区 低水護岸L=340m



飯間地区 護岸修繕L=180m



手越地区 河道掘削V=10千m³



下川原地区 河道掘削V=25千m³



■大井川:洪水を河川内で安全に流す対策

○侵食対策

・神座地区、上泉地区において侵食による堤防の決壊を防ぐために低水護岸の整備を実施。

○護岸修繕

・横井地区、金谷東地区において、護岸の修繕を実施。

○水位低下対策

・洪水を安全に流下させるために、飯淵・川尻地区で河道掘削を実施。

表 堤防の整備状況(令和5年度末時点)

	堤防必要区間 延長(km)	計画断面堤防区間		暫定断面堤防区間	
		延長(km)	率(%)	延長(km)	率(%)
整備計画策定時	38.6	35.8	92.7	2.8	7.3
現況		37.3	96.7	1.3	3.3

神座地区 低水護岸L=40m



上泉地区 低水護岸L=95m



横井地区 護岸修繕L=300m



金谷東地区 護岸修繕L=200m



飯淵・川尻地区 河道掘削V=36千m³



令和5年度の主な取組（静岡河川事務所）

令和5年度実施

○ソフト対策の主な取組

高校生向け教材

学校防災教育支援

高校において必修化された「地理総合」が防災と親和性が高いことから、地理総合の授業で防災教育に活用いただける教材を作成しました。



駿河総合高校において、地理総合の授業で、水害時の被災イメージを学習し、リスク情報の詳細な読み取りやそこからイメージを膨らませ、対策や自助・共助についてグループで話合いました。

水防災教育学生サポーターへの支援



テーマごとに想定される授業支援内容を具体化し、学生サポーター自身の参考となる補助教材を作成しました。

出前講座



小・中学校において、身近にある安倍川の歴史、水害について紹介しました。災害についての知識の習得や、身を守るためには事前の備えが重要であること等を説明しました。



令和6年度の主な取組(静岡河川事務所)

令和6年度予定

■安倍川: 洪水を河川内で安全に流す対策

○護岸修繕

・牧ヶ谷地区、牛妻地区において、護岸の修繕を実施します。

○水位低下対策(河道掘削)

・下川原地区において洪水を安全に流下させるため河道掘削を実施します。

牧ヶ谷地区 護岸修繕 L=100m



牛妻地区 護岸修繕 L=40m



下川原地区 河道掘削 V=約48千m³



■大井川: 洪水を河川内で安全に流す対策

○侵食対策

・上泉地区において侵食による堤防の決壊を防ぐために低水護岸の整備を実施します。

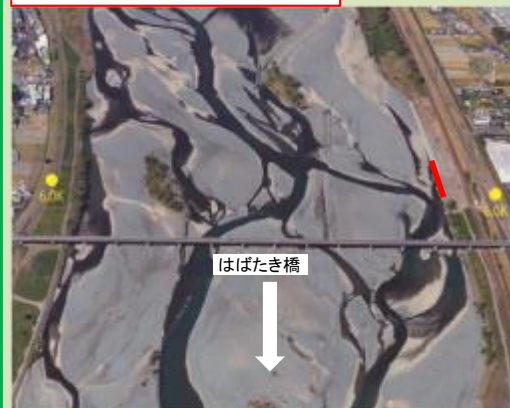
○護岸修繕

・西島地区において護岸の修繕を実施します。

○水位低下対策(河道掘削)

・飯淵・川尻地区において洪水を安全に流下させるため河道掘削を実施します。

上泉地区 低水護岸 L=95m



西島地区 護岸改修 L=50m



飯淵・川尻地区 河道掘削 V=30千m³



令和6年度の主な取組(静岡河川事務所)

令和6年度予定

〇ソフト対策の主な取組

水防災教育学生サポーター制度の活用

・他機関と連携し、防災授業未実施校の教員に働きかけるなど、水防災教育を広げる。

『水防災教育学生サポーター制度』とは

水防災教育授業に、教員補助や生徒への助言等のサポーターとして、学生を派遣することにより、水防災教育の導入にあたっての教員負担を軽減し、普及・拡充を促進することを目的とし、協議会事務局(静岡河川事務所)と静岡大学で取り組んでいます。

河川事務所側のメリット

- ・水防災授業支援職員の不足解消・負担軽減
- ・水防災教育実施校の拡充による水防災教育の普及拡大
- ・国土交通省の水ビジョンの取組の理解促進(学生・大学向け)



学生・大学側のメリット

- ・行政の取組の理解促進・体験
- ・社会貢献機会
- ・進路先の検討
- ・就職活動でのPR



▲事務所・学生相互にメリットのある仕組み

マイタイムラインの活用

『マイタイムライン』とは、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる防災行動を時系列に整理し、避難行動のための一助とするものであり、さらなる普及に取り組む。

マイタイムラインの一例

地域特化資料の作成

・水防災教育の支援の一環として、児童・生徒が学校付近で発生しうる浸水を、写真などでイメージができるように、地域に特化した分かりやすい資料の充実を図り、出前講座等で活用する。

地域に特化した資料の一例



地域特性



浸水ナビ